生徒の「思い」を授業改善に生かす

静岡県藤枝市立岡部中学校
紅林　定宏

1　「見通す」こと「振り返る」ことの意義

日本の子供は教科の学習が嫌いで、学習の意義をつかめない……「情意」の側面に問題がある、と様々な国際調査で指摘されてきた。「自分にはどうせできっこない」と思っている生徒は、本当はできるだけの力を持っていても、「やろう」という意欲がわかない。反対に、「自分にもできるかもしれない」と思っている生徒は、粘り強く取り組める。そのうち、本当にできるようになることもある

教科の学習を通して健全な「思い」を形成し、前向きに学習に取り組む生徒を育むこと、それに向け授業を改善すること、これらが、「見通す」「振り返る」ことの意義だと考える。

2　「見通す」「振り返る」で育つ「思い」

私が行う「見通す」「振り返る」は表①のようなものであり、基本的には、作品や単元、学期を対象に「見通す」「振り返る」活動が効果的に行われるように工夫したものである。

実践を通して、殊に「振り返る」効果として、生徒の表れから、次の内容を確認できた。

1　学習方法を再確認（強化）できる
2　学習内容に自信が生まれる
3　教科学習への価値づけがされ、必要度や好感度が増す
4　自分への効力感や自尊感情が高まる

これらは、日本の子どもにとって不足していることに深く関わる内容である。

しかも、その形成には、どんな学習内容を扱ったかということも大切ではあるが、どのように学習活動を行ったかということに大きく影響を受けていることが確認できた。

対象	見通しを持つ
年度 学期	◆夢を語ろう！（教科書の目次を眺めつつ） …この学習で、どんなことを達成したいか、目標をもち、努力への決意を固めよう ・不安なことは何？ ・頑張りたいことは何？ ・どんな力をつけたい？ をまとめる
単元 教材	◆つけたい力を考えよう 単元でつけたい力を考えよう ・この学習に対する率直な考えは？ ・どのような力をつけたいか？ ・自分の課題は何だろう？
対象	振り返り
年度 学期	◆成果を確かめよう！ （教科書・ノートの記録を眺めつつ） …この学習で、どんな自分になったか、振り返ろう ・成長を確かめよう ・どんな力がついただろう ・まだ足りない力は何だろう 成長を実感し、次への課題を整理する
単元 教材	◆つけた力を振り返ろう （ノートの記録を眺めつつ） この単元（作品）の学習を通して ・自分はどう成長しただろう ・どんな力がついただろう ・友達から評価してもらおう

表①

3　教科の学習で形成される「思い」……「主張文」の学習を通して

作文指導の具体を通して、「見通す」と「振り返る」について考える。

(1)　「見通す」活動

これから行われる学習に不安や無力感、無意味さを感じているとしたら、学習は十分に成立しない。

そこで、学習の初めの段階で、学習内容を「見通す」活動を設けた。そこでは、

・どんなことをやるのか
・到達点はどのようなものか
・どんな方法でやるのか
を教師から提案し、
・学習方法への賛否や工夫
・この学習で楽しい（と思われる）活動はどんなことか
を、小集団で相談、提案させた。

生徒から「完成前の作文を批評し合って直したい」という提案があり、相互批評を清書の前段階にも入れた。また、「作戦用紙」の使い方、教師からの「追究の赤ペン」や「面談」については「おもしろそうだ」と前向きに受け止める反応が多かった。

「作文なんて、材料が見つからないし、うまく書けないからいやだ。」としていたA子は、この「見通す」学習をとおして、「作戦用紙に書き込んで、先生と面接したり、追究されたり、友達と批評しあうのは、ちょっとおもしろそう。」と、変化が表れた。

「見通す」活動では、これから始まる学習に対し、まず、苦手意識や不安感を率直に語らせたい。そこに授業改善のヒントが隠れている。さらに、課題意識や期待を抱かせたい。そのためには、教師の提示とともに、生徒からの提案という形は有効であると考える。

「主張文」の授業は、提案をふまえ、次のように組んだ。（全6時間）

①テーマ探し、各部分の内容の掘り下げ
　＊教師から追究の赤ペン、学習面接
②各部分それぞれの内容をひたすら書く
③各部分の順番を考え、構成を考える
④相互交流・相互批評・修正→清書
⑤相互交流・相互批評、

A子は、この学習で、親子関係を題材とし、『なんで親なんているんだよ！』を創り上げた。「作文が苦手」なA子自身も驚く超大作となっていた。たまたま学校に来た母親に見せたところ、母親は涙してしばらく言葉が出なかった。学年の職員も絶賛し、「あのA子が?!」と驚いた。何より、相互批評をした友達六人がことごとく感動した。

このような表れを見せたのはA子のみではなかった。それぞれの生徒が思い思いの文章を作り上げ、友達から評価され、手ごたえを感じていた。

(2) 「振り返る」活動

締めくくりの段階では、完成した文章を読み合い、相互批評をした。さらに、それを本人に返し、学習活動を振り返った。

A子は次のように書いた。

……作文を完成することができたのは、作戦用紙と友達からのアドバイスのおかげ。
この授業をやって、文を作るのが前よりもうまくなったなあと思う。先生に質問されたり、友達にアドバイスをもらったときには、「ハアーッ?!」という感じだったけど、そのうち「そうか！　そうだったんだ！」と思えた。そして直した。よくなった！
自分で考え、思ったことがたくさんあった。最後、自分なりにまとめることができたので満足。
次の作文の時には今回のやり方を使っていきたい。いい文章が書けると思う。ちょっと作文に自信をもてたし、ちょっと得意かもと思えた。

このように作文への手ごたえを感じている様子が他の多くの生徒からも確認できた。

4　まとめ

「見通す」段階で、生徒の苦手意識や課題などを把握することは、教材選択・変更、授業構成の工夫に生かせる。

「振り返る」段階での表れは、教師に対する「授業評価」である。どんな「思い」が育ったのかを見極め、それが形成された学習活動が特定できれば、授業構成の改善に向けた具体を考えることができる。

「見通す」「振り返る」活動は授業改善に直に生かせる、生かしたい！……授業実践を通して、日々考えていることである。

くればやし　さだひろ　静岡県藤枝市立岡部中学校教頭　教科の学習を通して生徒に形成される『思い』にこだわりをもって、仲間と授業実践を続けています。